

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

推計震度分布図について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2025 年 4 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

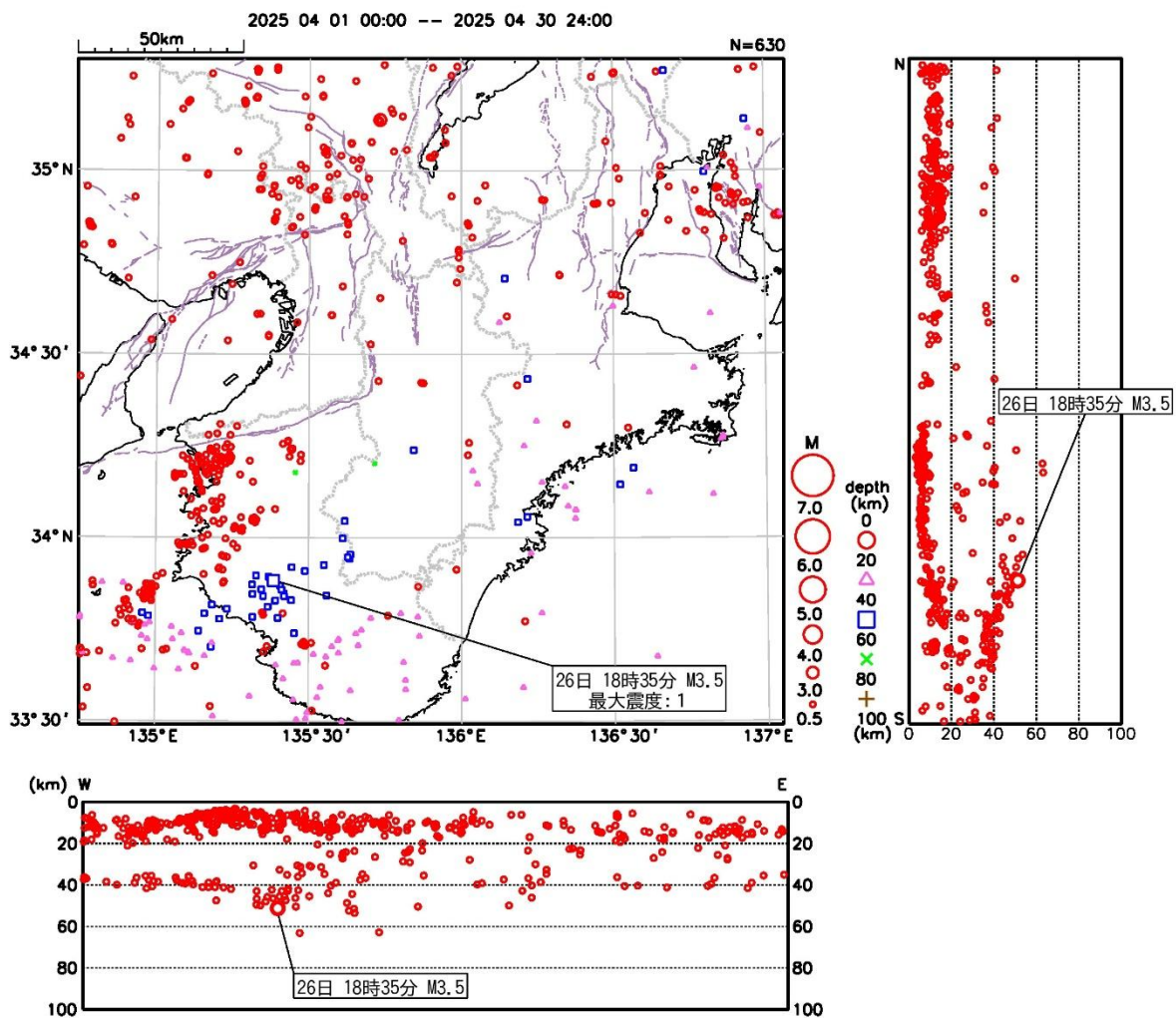


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模等を記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

8日19時26分 愛知県西部の地震（最大震度3、深さ36km、M4.6；震央分布図地図範囲外）により、奈良県内では奈良市、大和郡山市、天理市、桜井市、御所市、山添村、平群町、川西町、曽爾村、御杖村、高取町、明日香村、広陵町、天川村、宇陀市で震度1を観測しました。

26日18時35分 和歌山県北部の地震（深さ51km、M3.5）により、奈良県内では下北山村で震度1を観測しました。

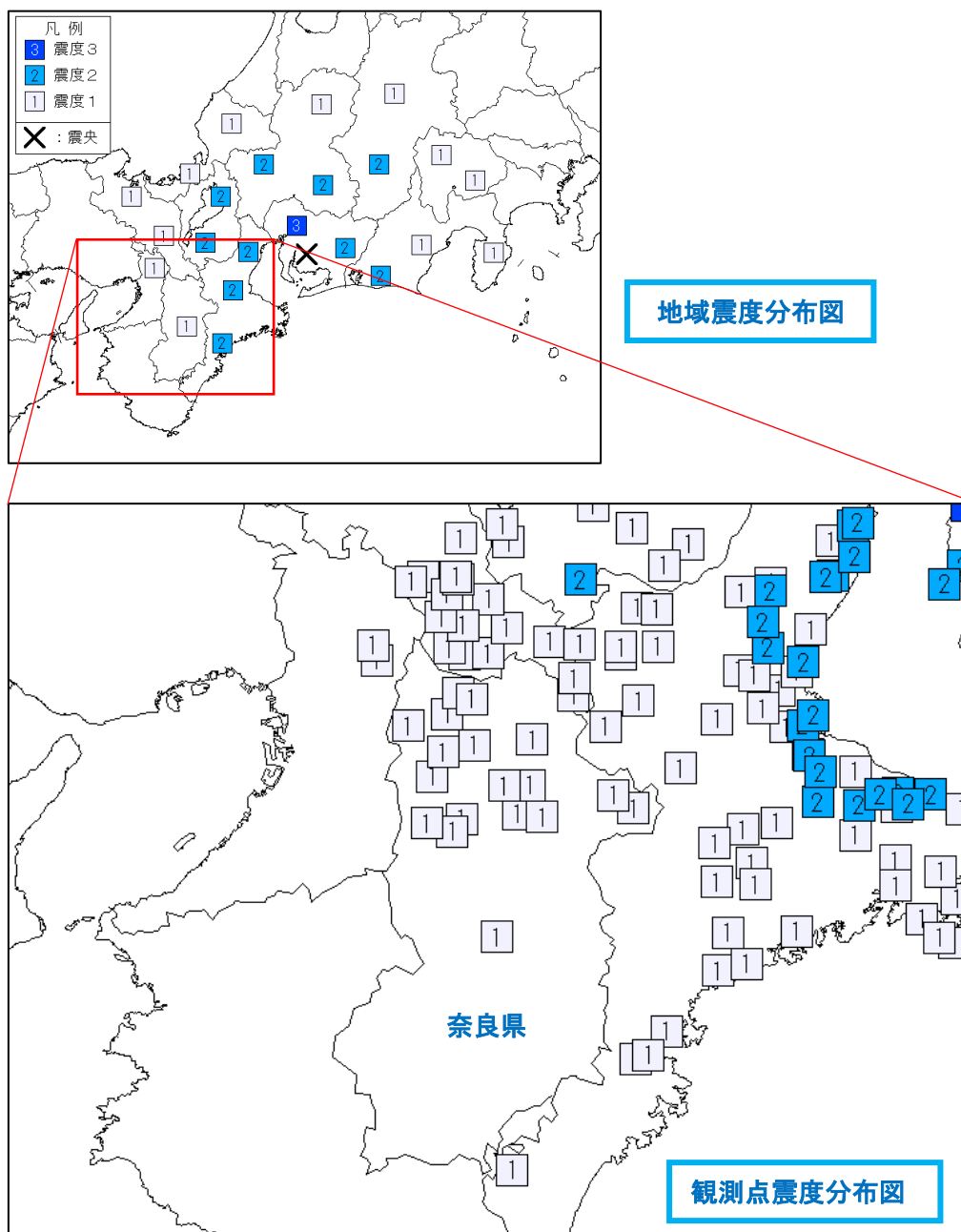
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2025年04月08日19時26分	愛知県西部	34° 55.9' N	137° 06.2' E	36km	M4.6
震度 1：奈良市西紀寺町, 奈良市月ヶ瀬尾山*, 奈良市二条大路南*, 奈良市都祁白石町*, 大和郡山市北郡山町*, 天理市川原城町*, 桜井市初瀬, 御所市役所*, 山添村大西*, 平群町吉新*, 奈良川西町結崎*, 曽爾村今井*, 御杖村菅野*, 高取町観覚寺*, 明日香村橘*, 広陵町南郷*, 天川村洞川, 宇陀市菟田野松井*, 宇陀市榛原下井足*, 宇陀市大宇陀迫間*					
2025年04月26日18時35分	和歌山県北部	33° 52.9' N	135° 23.1' E	51km	M3.5
震度 1：下北山村寺垣内*					

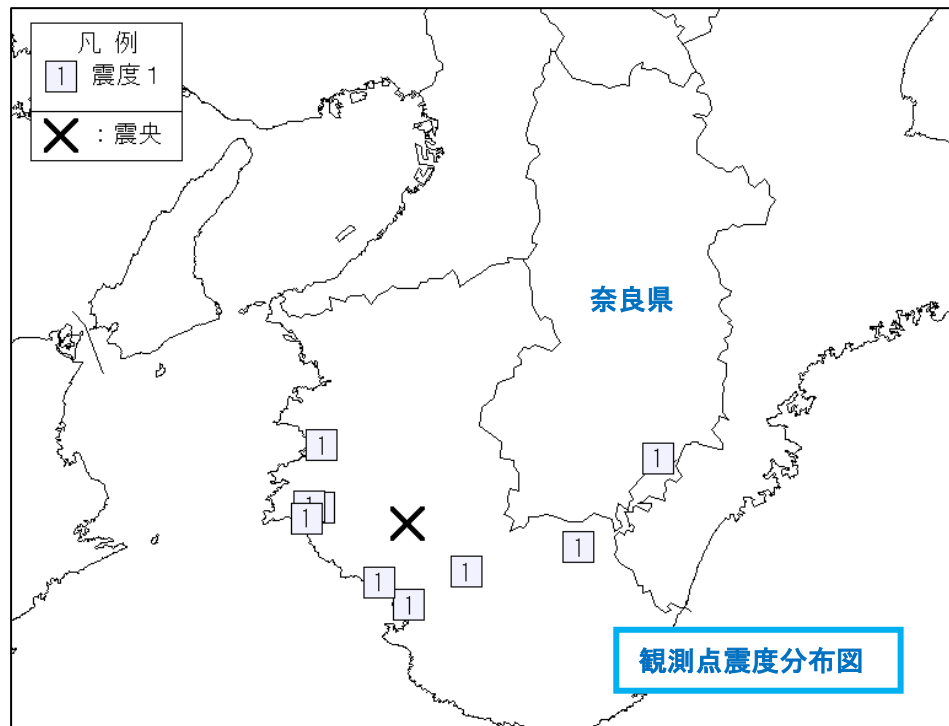
* 印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布】

2025 年 04 月 08 日 19 時 26 分 愛知県西部 34° 55.9' N 137° 06.2' E 36km M4.6



2025 年 04 月 26 日 18 時 35 分 和歌山県北部 33° 52.9' N 135° 23.1' E 51km M3.5



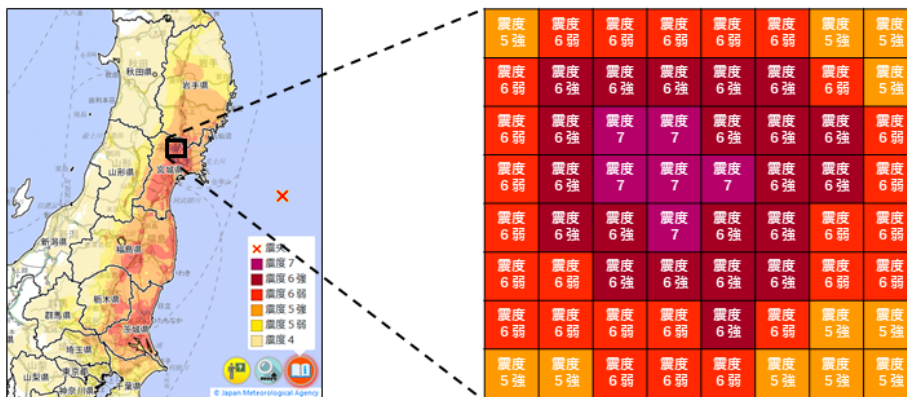
【地震一口メモ】

推計震度分布図について

推計震度分布図について

軟弱な地盤では揺れが大きく、強固な地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅度の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を使用して震度計のない場所の震度も推計して面的な分布図で震度を表現したものです。「推計震度分布図」は、250m メッシュ毎の解像度で作成され、原則として最大震度5弱以上を観測した場合に地震発生後速やかに発表されます。「推計震度分布図」は白地図に震度の大きさ毎に色分けをして推計震度4以上の範囲を示します。

ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な広がりが見られない場合などは推計震度分布図を掲載しないことがあります。実際の「推計震度分布図」のイメージは（図1）のとおりです。



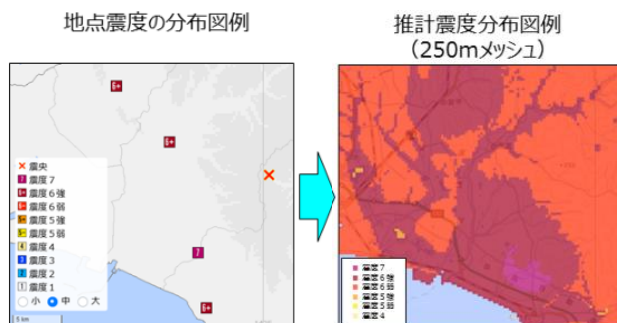
（図1）メッシュ毎に推計される震度のイメージ （出典：気象庁ホームページ）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/suikai/kaisetsu.html>



地震で観測された震度の分布と推計震度分布図について

地震で観測された地点震度の分布図例と推計震度分布図例の比較を以下に示します。推計震度分布図では、震度の大きな地域がどのような広がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などといった揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な広がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください（図2）。



（図2）地点震度分布図と推計震度分布図 （出典：気象庁ホームページ）

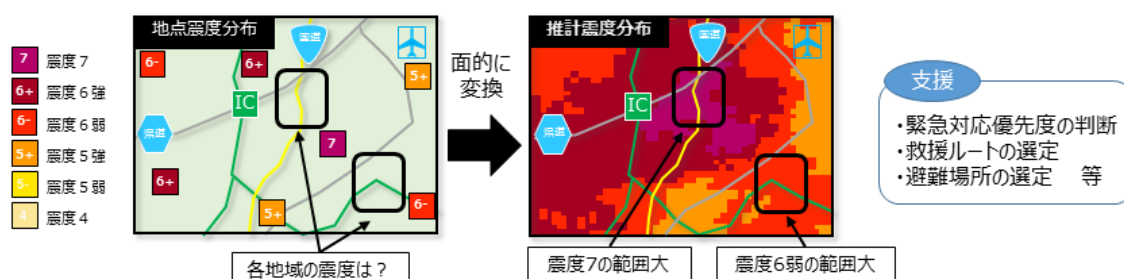
推計震度分布図の利活用

推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図データと重ね合わせて掲載しますので（推計震度分布図（防災情報））※1、揺れが強かった地域を一目で確認したり、震度計がない地域の震度を速やかに把握することが可能です。

※1 https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map



利活用事例の一つとして、地震発生直後の、応急対応すべき優先箇所の判別に活用可能です。迅速かつ適切な救難ルートを選定や避難場所の選定等に活用いただけます。また、メッシュデータを用いることで、ある地域の建物の被害を推計することや、企業活動において、被災地域に立地する拠点・事業所のBCP対応の判断材料として活用いただくこともできます（図3）。



（図3）推計震度分布図の利活用イメージ（出典：気象庁ホームページ）

利用上の留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。